

## 令和3年度学校関係者評価シート(中間評価)

令和3年 10月 18日

校番	067	学校名	広島県立廿日市西高等学校	校長氏名	田中 勲	<input checked="" type="checkbox"/> 全・定・通	<input checked="" type="checkbox"/> 困・分
----	-----	-----	--------------	------	------	---	---

評価項目	評価	理由・意見
目標、指標、計画等の設定の適切さ	A	学校の現状を丁寧に把握した上で、校長の思いが込められた経営目標と行動計画が設定されている。今日的な青少年教育の課題も踏まえてあり、適切である。
計画の進捗状況の評価の適切さ	B	課題の解決に向け、具体的な取組計画に対し、適切に行われている部分と不十分な部分とを把握し、評価がされている。 校内美化の取組への評価がCであるが、コロナ禍で取組が困難な中、創意工夫をして校内環境の整備は進んでいると思われる。
目標達成に向けた取組の適切さ	B	コロナ禍で学校行事が計画どおり実施できない中、生徒の主体性を引き出すべく、生徒会を機能させ、柔軟に対応した取組がみられ、困難状況に挑戦する生徒を育てようという姿勢がうかがえる。 一方で、教育目標の「本質追求」に向けては、物事に対して受動的・消極的な生徒が多いと言わざるを得ない現状を踏まえ、達成には相当な努力が必要と思われる。特に学力に自信の持てない生徒に対しての取組を具体的に示して欲しい。
評価結果の分析の適切さ	B	実回数やアンケートの回答割合による定量的な評価だけでなく、教職員が現状で感じている定性的な評価も含めて、分析が行われている。 働き方改革の目標については、長時間勤務の縮減に向けた取組が、生徒とのコミュニケーション時間の確保と両立できているかの観点を忘れずに評価して欲しい。
今後の改善方策の適切さ	B	多くの生徒が、高い目標に挑戦することなく、自身の学力に応じた進路選択をしていると思われるため、特に学力向上については、改善方策が言葉だけにならないよう指導者としての情熱をもって取り組んで欲しい。 加えて、①家庭学習時間の増加、②不登校及び遅刻生徒の改善、③ICTを活用した授業改善、④地域や他団体との交流強化、⑤美化活動の充実といった課題について学校が一丸となって行っていくことを期待する。
総合評価	A	保護者や中学生等、外部へのアピール・情報発信として、ホームページの更新頻度が増え、活用が進んできている。今後の継続を期待する。 主に「総合的な探究の時間」で取り組んでいるとされる探究活動の内容が、具体的には分かりにくい。PTA新聞等で保護者向けに詳細を知らせることを検討して欲しい。 社会情勢が不安定で将来を見通せず、格差社会の進展が続く中、リスクを避ける行動が当たり前の様な雰囲気がある。教育目標の達成に向けてはまだまだ課題があるが、困難な状況下で先生方が懸命に努力され、すべき取組を着実にしようとしてされていることは高く評価できる。